

あいさつ

冬の足音が近づき、間もなくアルプスの頂にも冠雪が見られる頃となりました。ここ北アルプスの麓、北安曇の地で「第71回長野県学校体育研究大会」を開催させていただきますことに感謝申し上げます。

本年7月に県民文化部県民の学び支援課より公表された、「信州学び円卓会議からのメッセージ」では、信州教育について以下のように述べられています。

子どもの問いや発見を、学びの中心に据える。子どもの姿から、教師が学ぶ。子どもと共に、教師も成長する。信州教育は、「子どもの事実」に心を寄せて、学びに真摯に向き合い、子どもと教師が、共に学び、共に育つ場を丁寧に紡いできたのです。

これはまさに、本年3月に発行された「長野県学校体育研究叢書 第51号」に明記された、本会が大切にすべき「不易」及びブランドデザインに示された「信州教育」と一致しています。

- ① 子どもを中心に据え、子どもの内に建設される「問い」を大切にする教育。
- ② 学説を参考にしつつも、子どもの学びの事実を重んじ、子どもの実際からスタートしようとする教育。
- ③ 自主独立の精神に基づき、教師一人一人が「正しい」と思うことを革新的に実践しようとする教育。
- ④ 研究会などに自主的・主体的に参加し、そこでの活発な議論により成長しようとする教師。

そして先に示したメッセージは、その想いを以下の言葉で締めくくっています。

先人たちが築いてきた「信州教育」は、「子ども」を主人公にしたものであり、一人ひとりの教師が、教育という営みに主体的に関わってきたものでした。学びの中心に、子どもがいる。一人ひとりの違いを、互いに尊重する。一人ひとりの個性が輝いていく。「好き」や「楽しい」、「なぜ」をとことん追求していく。子どもが子どもらしく、幸せな子ども時代を謳歌していく。そして、他者と協働しながら、社会の課題と向き合っていく。新しい社会の創り手を、共に育み、支えていく。

このような「新しい当たり前」を共に創っていきませんか？

北安曇体育研究会では、研究テーマを『仲間と創りながら、自ら運動を実践していく力を育てる体育授業のあり方 ～子どもにも教師にも「わかりやすい体育」(教材化)、対話の質を高める体育授業～』とし、授業づくりにあたっては、会員同士が実際に動いての教材研究を大切にしながら研究を深めてきました。

本日は、これまで積み重ねてきました取組の成果を公開させていただき、ご参会の先生方と共に意見を交換し、学び合いたいと考えております。そして引き続き、歴史と伝統のある本研究会の「不易」な部分を大切にしながら、これからの未来を担う子どもたちを育成するために、一層研究を深めて参りたいと思います。同時に本日の研究大会が、皆様にとって少しでも明日からの授業づくりの糧になれば幸いです。

最後に、本大会の開催にあたりご支援ご指導賜りました、長野県教育委員会、大町市教育委員会、白馬村教育委員会、信濃教育会、北安曇教育会、北安曇校長会の皆様方に厚く御礼申し上げます。また、会場校としてご協力いただいた大町市立大町中学校、白馬村立白馬北小学校の校長先生をはじめ教職員、児童生徒の皆様深く感謝を申し上げ、あいさつといたします。

第71回長野県学校体育研究大会北安曇大会

実行委員長 篠崎 元嗣